

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<b>会 報 第 212 号</b>	2019年3月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

### 1. 活動報告（事務局 記）

—3月3日（日）会員12名が参加し、ため池内の除草、水路の補修、ヨケジの泥上げの作業を実施しました。なお作業前に、観察隊決隊日（食べられる野草）当日の、詳細な打ち合わせを行いました。

—3月16日（土）会員14名が参加し、須賀河内川の堆積砂の浚渫、用水路・ため池の補修、湿地帯の除草、蓮田への焼灰の施肥の作業を実施しました。

ため池にて特定外来生物ヌートリアが確認されました。

休憩時に、会計監査および総会に向けた協議を行いました。総会当日は、会費を徴収いたしますので、ご持参お願いします。

—3月17日（日）三角田（雑草やエコアップした根付き草を集積する所の名称）の草刈りと集積した草や木々の焼却をしました。

※当日「シュワリングネイチャーノの会」（松田会長）の活動がビオトープをフィールドとして約30名で10時～15時まで実施されました。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—3月31日（日）平成31年度総会

—4月7日（日）維持活動 エコアップ、修復作業

—4月20日（土）親子自然観察隊（結隊式・食べられる野草）

### 3. 来訪者の声

今回はありません。

### 4. 会員の声 「須賀河内川異変」 （原田 満洲夫 記）

前回「厚東川異変」で紹介したが外来動物ヌートリアが厚東川の支流須賀河内川を逆昇って我がビオトープのため池に現れた。3月16日の活動日、ため池内に姿を見せたのである。確認は原谷会員で急に大きな震えた声で一段下の湿地帯で作業エコアップ作業をしていた会員に呼びかけた、捕獲すべくと関根事務局長は急遽大きな網を持込、ほか3名がため池内に入り3つの浮島の底から追い出そうと長い棒で掻き混ぜたが姿は再確認されなかった。

草食動物であるため、雑草を食べてくれるので、エコアップをしてくれるので捕獲するのではなくそのまま放置しておいた方も良いのでは？と血を見るのが嫌な会員、いや！特に絶滅危惧に近い5種類の在来種（アサザ・ミズアオイ・ミズキンバイ・トチカガミ・田字草）まで食い荒らしては？と前田エコアップ担当会員。いや！特定外来動物に指定されたので殺してしまえ？とビオトープ本来の姿を主張する会員などなど、意見さまざま。

なかなか捕獲できるものではなく、ヌートリアにしてはこの場は命拾いをしたのである。

我々ビオトープをつくる会としては、このまま長居し数が増えて害するようであればこれを処置する必要が発生したのである。これも新たなエコアップであろうか？

“ヌートリア 捕獲網抜け 寒水へ”

## 5. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

### (37) ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* (タテハチョウ科)

南方種のチョウで、インド、東南アジア、オーストラリアにわたり広く分布しています。スマレを食草としますが、園芸種のパンジーやビオラなども好み、林縁部の草原から市街地の公園や家庭の花畑まで侵入し、幼虫は花や葉を食べつくして、花畑の害虫になっています。

以前は東海、近畿地方が北限とされていたようですが、温暖化の影響でしょうか関東地方にも生息域を広げ、東北地方や北海道でも“迷蝶”として記録されています。

1年に3～5回の発生を繰り返しますので、冬季を除きほぼ1年中みられるようです。ほかのヒョウモンチョウに比べて生き延びるのがしたたかで、県内では春～秋にかけどこにも見られます。市街地にも多く飛来しますので、皆さんにもなじみのあるチョウではないでしょうか。



ツマグロヒョウモン♂



幼虫



ツマグロヒョウモン♀

### 参考文献

須田真一・永幡嘉之 他、2012. フィールドガイド日本のチョウ. 327pp. 日本チョウ類保全協会. 東京.

## 6. 会よりの連絡事項

### 1、総会の日程変更

今年は県議員選挙の為、4月初めは例年の総会が出来ませんので、3月31日（日）9時二俣瀬ふれあいセンターにて開催されます。万障繰り合わせての参加をお願いいたします。参加できない方の年会費取りまとめをお願いします。

2、原田会長ご逝去による会長職は田村副会長にて業務引続きをさせていただいております。

## 7. 編集後記（中本 亜矢子 記）

212号は平成最後の会報になりますね。平成12年9月に発足して以来、18年と6か月。よくも続いていると思います。

発足当時はこんなに息の長い活動が続くとは想像もしていませんでした。春夏秋冬訪れるたびに様々な表情を見せるビオトープ。長年通い、環境整備に汗を流しているうちに愛着もわき、居心地の良いほっとスペースになっています。

18年の間にご逝去された先輩方も何人かおられますが、志を継いでこの場所を守っていただけたらと思っています。